

第43回 日南市美術展 審査員講評

【絵画・デザイン部門講評 * ^{もりやま}森山 ^{おさむ}修】

昨年に続き2年目の審査となりました。楽しみにやって来ました。ひとまわりして作品を見ました。昨年の作品の記憶があるので楽しみでした。一巡して見ると作品が一変していたので驚きました。絵画は自分の思いを追求していくことも大切かと思います。そこからいろいろな発見が生まれ、良い絵が出来るのではと思います。展示してあった絵はどれも素晴らしい優劣つけがたいものばかりでした。続けていくことで力がついてくるものです。来年に向けて頑張って描いてください。

◇特選・日南市長賞 『 燈 』 てつる

蛍かな。ともしびだけで描くのはとても苦労されたと思います。空気感がとても新鮮です。テクニクの素晴らしいさこの上なしです。

◇特選・日南市議会議長賞 『 プレイバック昭和 』 吉田 礼子

商店の並ぶ町中を静かな感じで描き上げた素晴らしい作品です。赤い看板2枚よい処に配置しており、静かな中にも活気を感じる絵となりました。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 Rain 』 柿原 康司

水面にできた輪。素晴らしい表現力だと思います。輪の配置に工夫の跡が見られます。色数が少ないので強い絵となりました。

◇奨励賞・日南市教育委員会賞 『 ホース・アイ・ワールド 』 伊波 優姫菜

見事な描写力です。空間の白いところ、何か工夫されてはと思います。

◇奨励賞・日南市文化芸術協会会長賞 『 奄美の海 』 荒木 英子

奄美の感じがよく出ています。海面の流れが素晴らしいです。空気の流れを感じる絵となりました。

◇新人賞 『 おめかしママ友 』 佐々木 直子

出品したのが新人ということでしょうか。描写力はとても新人とは思えません。難しい人物をここまで描きこなすことは素晴らしいことです。

【書部門講評 * ^{ひらた}平田 ^{さとし}哲】

出品された、漢字・仮名・調和体の作品群を目の前にして、何かしら迫りくるものを感じました。これは、やはり作者の熱意が醸し出す独特の雰囲気なのでしょうか。

昨年から続いて出品された方の作品には、十分な研鑽の跡が伺え、審査にも気合が入りました。

入賞決定は、私の好みの部分が大きく反映されている為、出品者の方々全員にお応え出来るものではありませんでしたが、精一杯考えた末の結果です。ほかの審査員の眼を通せば又違う作品が顔を見せたかも知れません。

◇特選・日南市長賞 『 夏の歌を三首 』 四月一日 美代香

昨年の仮名も、素晴らしい作品であったが、今回は難しい調和体に挑み成果を見せた。

見事な運筆で、安定感のある字形と、持ち前の優しい線を表現している。

◇特選・日南市議会議長賞 『 高攀龍詩 』 請川 結香

その高い基礎力を持って、勁い線條と厚みが織り成す複雑な表現ができたのは、日ごろの弛まぬ努力による成果かと思う。

若い作家なので、大いなる書力の向上を期待したい。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 万葉集 3 首 』 小田 和恵

小振りの作品ながら、変化のある字形と構成で、各行の響き合いに妙を見せた。流麗な線條には若々しさを感じる。

◇奨励賞・日南市教育委員会賞 『 小諸なる古城のほとり 』 和華

縦三行の基本的な構成だが、馴染みのある詩を味わい深い線で楽しく表現している。

この作品を観ると、書作には、楽しむ姿勢を抱くことが必要第一かと考える。

◇奨励賞・日南市文化芸術協会会長賞 『 袁枚詩 』 新名 未優

丁寧で優しい運筆が、作品に温かさを持たせている。あと少し滑筆部を織り込むと立体感が表現できる。行間の統一化も欲しい。

◇新人賞 『 香川景樹のうた 』 蒼穹（井上 磨美）

香川景樹の春を想わせる歌を借りて、明るい仮名作品を創った。柔らかい線で、女手の優美さが表現できている。

程良い墨の潤滑で、遠近感を表す技量には、新人と思えない書力を感じる。

【写真部門講評 ＊ ^{ひがしこば}東木場 ^{あきひろ}昭裕 】

宮崎県内の大きな美展で多数の入賞者を輩出している日南市の美術展の審査をさせて頂くことになり大変恐縮な気持ちであると同時に、この日が待ち遠しく楽しみにしていた。そして悩みに悩んだ末の審査結果で力作揃いだったことは伝えておきたい。

全体を見て感じたのは人物、動物、昆虫、祭りとバラエティーに富んでおり、一部を除き作品内容に偏りが無い事だろうか。逆にこれが審査を悩ませる要因になったのだが、人真似でない個々の視線を大事にしている表れかと察する。

◇特選・日南市長賞 『 まなざし 』 桂 美保子

三匹の猿の表情が異なっており見ていて退屈しない。命題となる「まなざし」を中央に配し、モノクロにすることでより強調されて成功している。また光の読みも優れており、とても印象に残った作品であった。

◇特選・日南市議会議長賞 『 「海の幸が寄するところ」 』 谷 由美子

祭りの様子を組み写真で現した作品で、一枚一枚の写真が単写真でも通用するレベルである。組み写真はともすると似たような内容の写真で構成され、変化に乏しく、くどい作品になりがちで難しい。この作品には祭りの様々な要素が見られ、唯一人物でない神面が作品を引き立ててくれている。欲を言えば少し暗部(影)が多いので、右上の写真をプリントの段階でもう少し明るくして欲しかった。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 熱情 』 枡屋 泰知

情熱は聞いたことがあるが、恥ずかしながら熱情は初耳なのでスマホでググってしまった。情熱とほぼ同意語のようなので作者なりに思うところが有ったのだろうか、何かパワーを感じさせる上手い作品名と思った。

写真を選考する上で作品名は重要なウエイトを占めていると私は常々思っている。そこには撮り手の意思が込められており、それをどう写真で表現出来ているかが作品の見所になるのである。

余計なものを排除し、「写真は引き算」の力量を感じさせる作品である。

◇奨励賞・日南市教育委員会賞 『 蛍のお参り 』 光兼 征太郎

ヒメボタルが舞う幻想的な風景だ。最近のデジタルカメラの進歩により、SNS等でもよく見掛けるようになった。それだからこそ、見飽きられないよう独自の視点で捉えることが重要になる。この作品は神社を用いて夜の神秘さをうまく表現している。前ボケを上手く配することで平面になりがちな風景に奥行き感を与えてくれている。欲を言えば全体的に風景が明るく、寂とした雰囲気損なわれた感がある。比較明合成と思われるので社や背景をもう少しアンダーにしても良かったかもしれない。

◇奨励賞・日南市文化芸術協会賞 『 Garden Story 』 隈本 まり子

昆虫に注目した組み写真である。作品名から自宅の庭先で見掛けた昆虫を撮影したのであろう。一番上の写真が植物でなくバックのようなモノが、その感じを上手く表現している。昆虫が周りの景色に溶け込まないよう昆虫の背景にも気を配っている所に力量を感じる。

作品名もポップで昆虫の可愛らしさとマッチして好感の持てる作品に仕上がっている。

◇新人賞 『 大好きな電車になってみた！ 』 総田 有梨

全作品の中では小さなサイズではあるが、非常に広がりを感じさせる気持ちの良い作品である。なぜこの子はこんな事をしているのだろうか？子供の仕草や行動は大にして大人の考えの範疇を遥かに超える。作品でよく見掛ける子供のポーズでなく、大胆な海亀のようなユーモラスなポーズが目を引く。広がった浜辺と空の配分もよく、少し斜めにした水平線が間延びしそうな風景に動く感を与えてくれている。

【彫刻・工芸部門 ＊ ^{そのだ} ^{いっせい} 園田 一成 】

彫刻工芸作品の制作にあたって造形としてのおもしろさは为什么呢？作者の感性でひとつの素材が持つ豊かな表情を確かな形や意匠に生まれ変わらせる、作品作りの楽しさはここにあると思います。ジャンルの違いを認め、その物自体の良さをみつめようとする考えが根本にあるからだと思います。今回の出品作にも完成度の高い心打たれる秀作がある一方、素材の扱いにもう少し配慮されたらもっといい作品になるものもありました。今後の研鑽が楽しみです。出品点数が増えたことはとても喜ばしいことです。日南市美術展の更なる発展を願います。

◇特選・日南市議会議長賞 『 穴がま焼締メ花器 』 高村 正明

特に焼成が成功しています。形と自然釉のバランスが絶妙です。穴窯ならではの作品です。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 薔薇 』 田中 千尋

絵画的でおもしろい作品です。細かいところまで手が入っています。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 小さな器たち 』 甲斐 泰子

日常生活で普段使いの器たちの作品ですが、丁寧な仕上がりになって好感が持てます。

◇奨励賞・日南市教育委員会賞 『 みどりちゃん 』 大岩根 チカ

染色の題材としてはとてもユニークで構図がおもしろいです。

◇奨励賞・日南市教育委員会賞 『 今日が宝物 』 小南 貴子

石彫でおだやかな表情に作者の人柄が偲べれます。

◇奨励賞・日南市文化芸術協会会長賞 『 日南海岸 』 関屋 幸子

自然の形態に人工的な色彩が加えられることにより芸術としての価値を生み出しています。郷土を題材にしているところも好感が持てます。

◇新人賞 『 Small Vessels 』 アビー ショウ

努力の跡が見られます。カップ等の持ち手の工夫があるともっと良くなると思います。